

平成27年3月10日

足立区立鹿浜第一小学校  
学校長 石田 好広 様

足立区立鹿浜第一小学校 開かれた学校づくり協議会  
会長 小宮 功

## 平成26年度 学校関係者評価書

### 1 自己評価について全般について

鹿浜第一小学校では、昨年度の学校経営計画において設定した重点的な取り組み事項の成果と課題を詳細に分析し、平成26年度の学校経営計画において、以下の3項目を重点的な取り組み事項とした。

重点的な取り組み事項には、それぞれに成果目標、達成基準、達成に向けた具体的な取り組みを設け、実施結果と課題を自己評価書としてまとめている。

開かれた学校づくり協議会では、自己評価書や授業参観時の状況を基に重点的な取り組み事項の成果と課題について検証した。

#### 重点的な取り組み事項

##### 重点的な取り組み事項－1 基礎学力の定着

成果目標 4月の区学力調査問題の各学年の通過率を1月の再テストでは1割アップする。

達成基準 65%

#### 目標実現に向けた取り組み

##### (1) 授業規律の定着

###### 具体的な方策

- ①ノーチャイムの廃止 教育活動の区切りを明確にする。
- ②20分休み、昼休みに予鈴を鳴らしチャイム着席を定着させる。
- ③「鹿一小の学習のきまり」を全児童に配布して、定着させる。

###### 実施結果

ノーチャイムを廃止し、チャイム着席の意識化を図ることができた。また、「鹿一小の学習のきまり」だけではなく「家庭学習のすすめ」を作成し、配布するなど意欲的な取り組みも見られ、授業規律の定着はおおむね達成できた。

ノーチャイムは、自主性や時間管理の習慣を養うには良い取り組みであるが、時間管理が出来ない子どもが増えると授業開始時間が遅れるなどの弊害が予想されることから、チャイム着席を定着させ、授業開始のチャイムとともに授業が開始できる体制を整えることが重要である。

##### (2) 「読む」学習活動の充実

###### 具体的な方策

- ①低学年は、家庭と連携して音読カードに取り組む。
- ②3年生以上は、学年に応じた音読を毎日行う。
- ③文章だけでなく様々な資料を読み取る学習を計画的に実施する。

###### 実施結果

「読む」学習活動は、家庭学習や調べる活動に組入れて充実を図ったが、更なる取り組みの充実が必要である。

音読の重要性は様々な文献で指摘されているところである。音読、黙読を問わず、今後も読書を習慣化する取り組みの継続が求められる。

##### (3) 「書く」学習活動の充実 ノート指導の充実

###### 具体的な方策

①学年×60 字程度の書く学習を週に 1 回以上実施

#### **実施結果**

全校朝会について文章にする活動を週 1 回実施しているが、「読む」「書く」学習に課題が残る。

ノート指導は毎年行われているが、教師が児童の学習到達度や理解度を把握する上で重要な学習情報である。またコミュニケーションを図る上でも効果的な手法であり、今後も継続して実施していく必要がある。

#### **(4) 評価の改善 個に応じた指導の充実**

##### **具体的な方策**

①各学級の通過率、SP 表分析と課題のある児童の 2 年次からの分析

②放課後補充教室の計画的な実施

##### **実施結果**

昨年に比べ、児童一人一人の学習理解度と課題のある児童のつまずきを迅速に把握することができた。また、放課後補充教室も計画的に実施できた。

つまずきのある児童の指導には労力と時間を要する。特に算数は、積み上げの教科と言われるように、低学年のつまずきが高学年の学習に影響するため、継続した学習調査の分析と教師に負担の少ない合理的な指導体制の構築が求められる。

#### **【重点的な取組み事項－1の実施結果】**

各学級の学習理解度やつまずきの状況を分析し、放課後補充教室を計画的に実施し、目標実現に向けた様々な取組みを行ったが、残念ながら 1 割アップには届かなかった。

実施した様々な取組みについては、一朝一夕には成果に結びつかないため、今後も継続した取組みが必要である。

#### **重点的な取組み事項－2 幼保小中の連携**

**成果目標** 連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。

**達成基準** ①1月の調査で 80%の教員から連携事業への肯定的な回答を得る。

②1月の 6 年児童アンケートから中学校との交流授業について 7 割以上の肯定的な回答を得る。

#### **目標実現に向けた取組み**

##### **(1) 中学校教員との連携**

###### **達成基準**

①小中交流会、準備委員会を各 10 回実施

###### **具体的な方策**

①各教科の研究授業実施

②9 年間を見通した教科、生活指導計画の見直し

③「めざす子どもの姿と働きかけ」の作成

###### **実施結果**

具体的な方策については計画どおり実施し、基準を達成した。

小中の連携は、「中 1 ギャップ」の解消を目指すもので、継目のない指導法の研究を継続して実施してもらいたい。

また、引き続き地域の幼稚園、保育園と連携した取組みも継続して行ってもらいたい。

##### **(2) 保育士や学童指導員との交流**

###### **達成基準**

①全教員による保育園、学童施設見学会の実施

②年間 3 回以上の保育園児と低学年の交流事業の実施

###### **具体的な方策**

①全教員で保育園、学童の施設見学と園長、館長との話し合いを実施

②授業体験、公開授業、図書館見学、給食体験、展覧会等への招待

###### **実施結果**

具体的な方策については計画どおり実施し、基準を達成した。

校長が谷在家保育園で鉛筆の持ち方指導を行ったり、保護者説明会に参加するなど積極的に交流を図った。

### (3) 教員と児童、生徒との交流

#### 達成基準

- ①出前授業 3 回以上
- ②下記補充教室 10 日間
- ③部活動、授業体験 1 回
- ④中学校説明会 1 回

#### 具体的な方策

- ①出前授業 英語、算数等
- ②下記補充教室 指名補習
- ③部活動、授業体験 学年末考査中
- ④中学校説明会 生徒会が来校

#### 実施結果

授業体験は実施することができなかったが、他の方策については計画どおり実施することができた。

#### 【重点的な取り組み事項－2の実施結果】

2月の調査で100%の教員から肯定的な回答を得た。また、1月の6年児童アンケートから中学校との交流事業について71.4%の肯定的な回答を得て基準は達成された。

幼保小中連携が学力のためだけではなく、0歳から義務教育が終了するまでは、地域の子どもは地域で育てるという意識も求められる。

この地域は子ども会や町会の活動が盛んに行われており、学校と地域が手を携えて子どもを守り、育てていくと言う取り組みの中に幼保小中の連携を位置づけることも大切である。

また、教員にとっても交流を行うことにより、テリトリーを超えた新たな研修の場となることを期待したい。

#### 重点的な取り組み事項－3 心の教育の推進

成果目標 自他を尊重する気持ちと態度の育成

- 達成基準
- ①自己肯定感に関する項目 85%以上
  - ②挨拶・言葉遣いに関する項目 80%以上
  - ③本が好き 80%以上

#### 目標実現に向けた取り組み

##### (1) 丁寧な言葉遣い、気持ちのよい挨拶の推進

#### 達成基準

- ①児童アンケートで挨拶・言葉遣い 80%以上
- ②学校関係者評価で、挨拶言葉遣い 3%向上

#### 具体的な方策

- ①挨拶キャンペーンを通年実施する。
- ②学校便り、保護者会、ホームページで保護者地域に啓発活動を行う。
- ③PTA、地域と連携した挨拶運動の実施

#### 実施結果

年間を通じPTA、地域と連携して朝の挨拶運動会を行った。

立ち止まってお辞儀をしながら挨拶する児童が増えた。

挨拶に関する児童アンケートでは基準を達成したが、言葉遣いに関してはもう一息である。

挨拶を交わすことで児童の体調も把握でき、気持ちのよい挨拶によって活気のある充実した1日のスタートがきれる。

また、丁寧な言葉を使ってやりとりすることで、人との良い関わりが生まれ、より良い人間関係の構築に繋がることから、心の教育を推進するうえで大切な取り組みである。

##### (2) 読書活動の充実

#### 達成基準

- ①学年目標を昨年度比 3%向上に設定する。

[到達目標]

1年 90冊、2年 110冊、中学年 40冊、高学年 2700ページ

#### 具体的な方策

- ①学年ごとに、児童が自己評価できる読書カードを作成し、意欲を高める。
- ②図書委員会や図書ボランティアの活動を活性化し、読書環境を整備する。
- ③低学年児童に対し図書ボランティアによる読み聞かせを計画的に実施する。

#### 実施結果

到達目標は昨年と同じであるが、中学年以上の学年で、目標を達成した児童は40%余りであった。

読書を通して言葉や文字への感覚が生まれ、言語力、読解力の向上が図れることから、読書は非常に重要である。「読む」「書く」学習に課題を残しており、引き続き読書を習慣化する取り組みが求められる。

### (3) 交流活動の充実

#### 達成基準

- ①なかよし学級と普通学級の交流活動を実施する。
- ②高野小特別支援学級と交流活動を年2回実施する。

#### 具体的な方策

- ①なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を行う。
- ②高野小学校と連携し、スポーツ、歌、ゲーム活動の交流を行う。

#### 実施結果

なかよし学級と普通学級で授業や行事で交流を図った。また、高野小学校との交流は計画的に実施することができた。

### (4) 言語環境の整備 美しい日本語に触れる活動の充実

#### 達成基準

- ①俳句コンクールに投稿
- ②校内俳句コンクールを年2回実施

#### 具体的な方策

- ①俳句カルタや五色百人一首カルタを各学年に配布し、意欲を高める。
- ②パワーアップタイムで俳句や百人一首を暗唱する。
- ③各学級で計画的に句会を実施する。

#### 実施結果

俳句カルタや五色百人一首カルタを各学年に配布し、各学級で計画的に句会を実施した。パワーアップタイムは、基礎学力定着を優先して活用した。

俳句は表現力や自然への関心を高め、感情や情緒を育むには有効であり、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

### 【重点的な取り組み事項－3の実施結果】

児童アンケートでは、自己肯定率が、低学年71.2%、中学年71.2%、高学年54%であった。

また、挨拶、言葉遣いに関する項目においては、低学年88%（挨拶）、80%（言葉遣い）、中学年87%（挨拶）、64.4%（言葉遣い）、高学年82.3%（挨拶）、69.5%（言葉遣い）と挨拶については基準を達成したが、言葉遣いについては、低学年のみ基準を達成した。

学年が高まるに従い、乱暴な言葉を使う児童が増える傾向にあることから、PTAや保護者、地域と連携しながら目標達成に向けた効果的な取り組みを実施されたい。

本が好きについても75%と基準を達成できなかった。

## 2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

現状と課題を見据え3項目の重点的な取り組み事項を定め、教員が一丸となって課題の克服に努めた。どの取り組み事項も、一朝一夕に成果を得ることは困難であり継続性が求められる。

学校は、意欲的に課題を抽出し、課題の解決に向け、家庭学習の充実を図るため開かれた学校づくり協議会と連携して「家庭学習のすすめ」を作成するなど、効果的な対応策を実施する努力も怠っておらず、高く評価できる。

家庭には、基本的な躰と家庭学習の習慣化が望まれる。学校と家庭が協働して基礎学力の向上に取組み、底上げを図るためにも、学校と家庭、地域の連携を一層深める必要がある。「笛吹けど踊らず」では、せっかくの取り組みも効果半減である。

連携を深めるツールとして「鹿一キッズパレット」に期待したい。「鹿一キッズパレット」を学校、保護者、地域で活性化させ、目標として全児童の20%程度の参加を促したい。「スポーツの鹿一」から「スポーツも学力も鹿一」を目指して。